

全 建 アンケート

－ 中東情勢に伴う建設資材の需給に関する調査（7月期） －

令和 8 年 7 月 30 日



調査概要

【調査の目的】

中東情勢の影響等により、各種建設資材において価格改定や調達に対する懸念が継続して生じている状況を踏まえ、令和8年4月の調査に引き続き、現時点（7月）における最新の建設資材の調達状況等を把握することを目的として実施する。

【調査の内容】

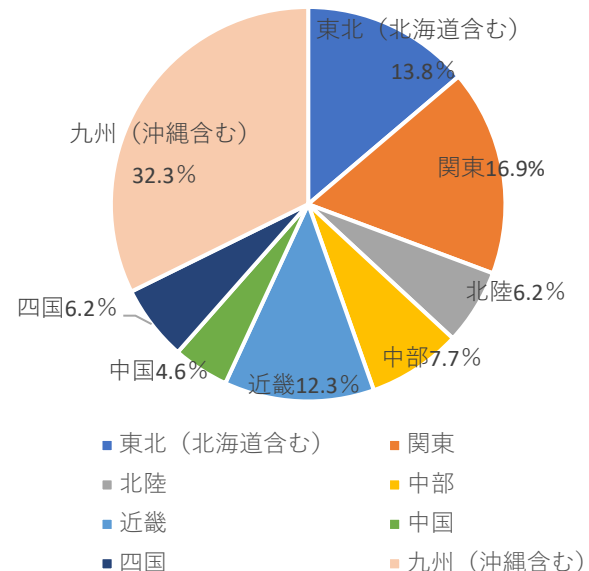
「全国建設業協会統一様式 おそれ情報通知書」に記載している主要な資機材に加え、今般の中東情勢の影響が大きいと考えられる資材を追加した計72種の建設資材について、現在生じている課題及び将来の見通し・要望事項を調査する。

【実施概要】

- ・ 調査期間 令和8年7月15日～22日
- ・ 調査対象 47都道府県協会の会員企業のうち、資本金5,000万円以上の企業1社及び資本金5,000万円未満の企業1社を各協会で選定し、47都道府県×2＝計94社を調査対象とした。回答企業数は65社。
※なお、各都道府県協会には原則2社の選定を依頼したが、協会ごとに回答企業数が異なり、一部では2社を超える回答があった一方、2社に満たない協会もあったことから、最終的な回答企業数は65社となった。
回答企業の内訳は以下のとおり（詳細は2ページの企業の属性を参照）
東北（北海道含む）9社、関東11社、北陸4社、中部5社、近畿8社、中国3社、四国4社、九州（沖縄含む）21社の計65社
- ・ 地域別（ブロック別）の分析については、各ブロックの回答企業数にばらつきがあり、適切な比較・評価が困難なことから、分析を実施しない。

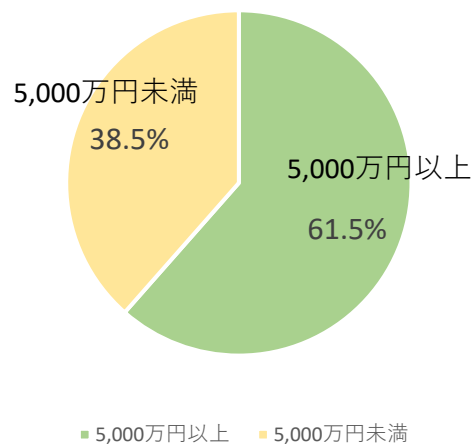
企業の属性

ブロック	都道府県	回答数	構成比
東北（北海道含む）	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	9	13.8%
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	11	16.9%
北陸	新潟、富山、石川	4	6.2%
中部	岐阜、静岡、愛知、三重	5	7.7%
近畿	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	8	12.3%
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	3	4.6%
四国	徳島、香川、愛媛、高知	4	6.2%
九州（沖縄含む）	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	21	32.3%
合計		65	100.0%



【資本金別】

資本金	回答数	構成比
5,000万円以上	40	61.5%
5,000万円未満	25	38.5%
計	65	100.0%

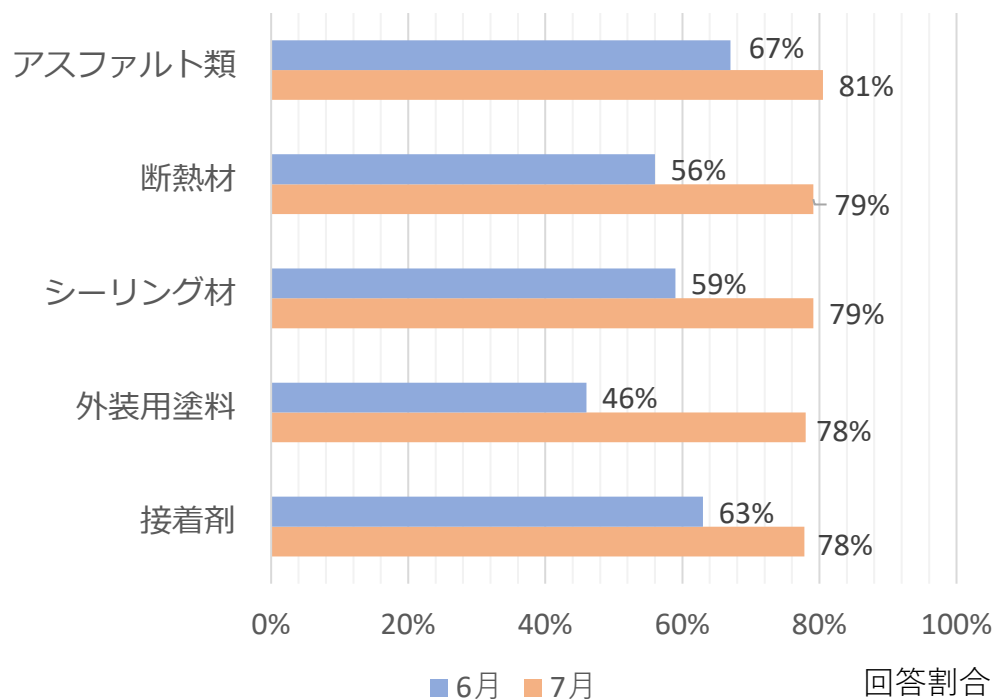


価格高騰が生じている建設資材

アスファルト類、断熱材、シーリング材、外装用塗料、接着剤など、石油化学系資材を中心に幅広い資材で価格高騰の回答が多く寄せられた。原油・ナフサ価格の上昇や運搬費の上昇を背景に、建設資材全般で価格高騰が続いており、前回（6月）調査から上位品目に大きな変動はなく、引き続き同様の傾向が続いている。

価格高騰が生じている主な建設資材TOP5位

（中東情勢の悪化前（2月）との比較）



（会員から寄せられた価格高騰に関する状況）

■石油化学系資材の価格高騰

- ・防水材料・塗料は前年同期比30%以上の値上がりが継続。シンナーは前年同期比120%上昇の報告もある。
- ・シーリング材は4月から20%以上の値上がりが続いている。
- ・断熱材は40%の値上がり（複数回答）。ウレタン吹付材料は6月出荷分より40%上昇。
- ・R8年2月よりアスファルト合材・塩ビ単価がいずれも40%上昇。塩ビ管は複数メーカーで5月から7月にかけて順次価格改定を実施。
- ・石油系資材全般は4月より30%上昇。接着剤20%上昇。
- ・内装材10～30%の上昇も報告されている。

■その他資材の価格上昇

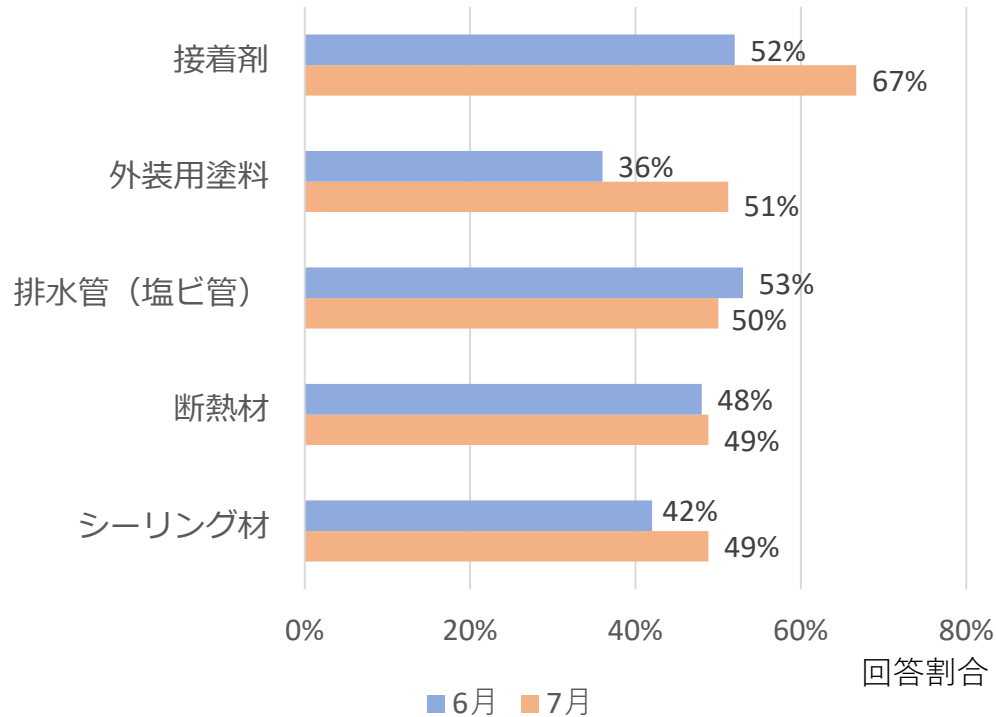
- ・生コン単価が6,500円/㎡上昇しており、一現場で10,000㎡使用する場合、6,500万円のコスト増となる。単品スライドの受注者負担分（1%）だけで2,200万円の負担が生じる。
- ・鉄筋価格は前年同期比で10%程度上昇、鋼材全体では15%程度の上昇。ゴムアスルーフィングは約70～80%の大幅上昇との報告もある。

※上昇率は回答に記載された値を掲載

入荷の遅延が生じている建設資材

接着剤、外装用塗料、排水管（塩ビ管）、断熱材、シーリング材等において入荷遅延の回答が多く寄せられた。
塗料・接着剤、塩ビ管・断熱材の納期長期化が継続しており、前回（6月）調査から上位品目に大きな変動はなく、引き続き同様の傾向が続いている。

入荷遅延が生じている主な建設資材TOP5位



（会員から寄せられた入荷遅延に関する状況）

■ 塗料・接着剤・シーリング材の納期長期化

・接着剤は通常2～3日の入荷が1～2ヶ月に長期化。床糊は2ヶ月程度を要する状態が継続しており、入荷時期が不明のケースもある。塗料は数ヶ月に数本程度の入手にとどまる事例もある。

・防水材・外装用シーリング材は2ヶ月程度、塩ビシート防水は通常1～2週間が1ヶ月以上に長期化している。

■ 断熱材の納期長期化

・断熱材は通常2週間の納期が1ヶ月以上に長期化。スタイロ系は3～6週間、グラスウール系は1～2週間程度の遅延が継続している。

・以前の納期には戻っておらず、2ヶ月程度納材手配期間が長期化しているとの報告もある。

■ 塩ビ管・配管系の納期不安定

・塩ビ管・ポリエチレン管は通常1～2週間が1ヶ月以上、場合によっては2ヶ月程度を要している。発注後も入荷日が未確定で、オーダー数より出荷数が減らされる事例もある。

・メーカーが真に必要な現場かどうかを見極めて出荷しているため遅延が生じているとの報告がある。工程に支障が生じた現場では铸铁管への代替を設計変更協議で対応した事例もある。

■ その他

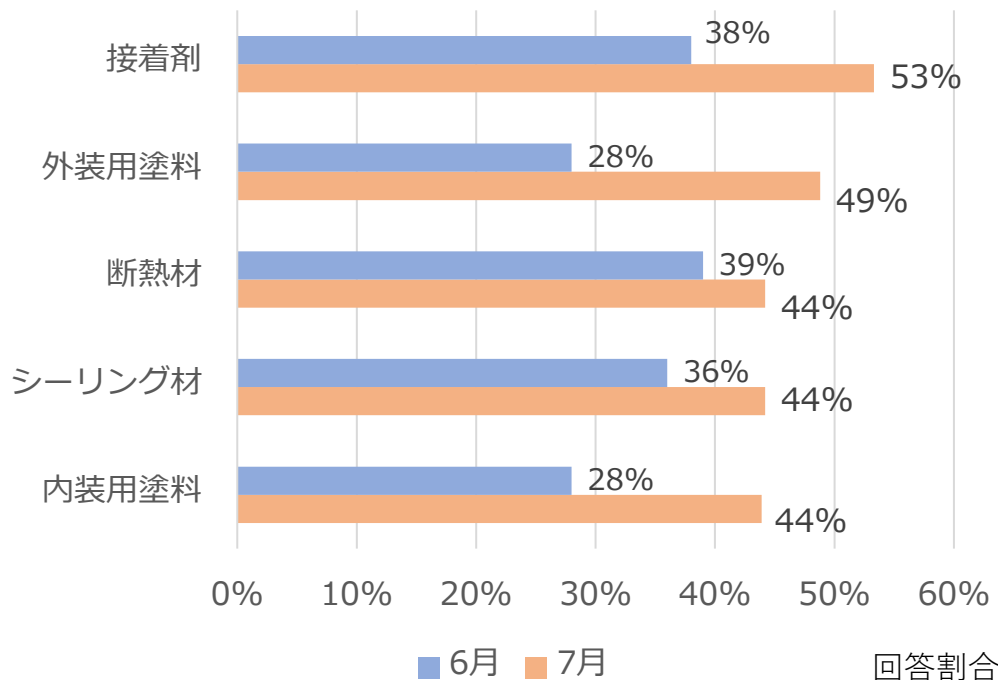
・LED照明器具は通常1週間で2～6ヶ月、高圧ケーブルは1ヶ月が3～6ヶ月に長期化。施設照明器具は4ヶ月以上、光ファイバーケーブルは4ヶ月～納期末定の事例もある。

・ユニットバスはメーカーによって1.5ヶ月程度の遅れが生じている。

供給不足・制限が発生している建設資材

接着剤、外装用塗料、断熱材、シーリング材、内装用塗料等において供給不足・制限の回答が多く寄せられた。断熱材の出荷停止や塩ビ管の受注制限が継続しており、前回（6月）調査から上位品目に大きな変動はなく、引き続き同様の傾向が続いている。

供給不足・制限が発生している建設資材TOP5位



（会員から寄せられた供給不足・制限に関する状況）

■ 接着剤・塗料系の供給制限

・接着剤は必要数量の約2割程度しか入荷できない事例も。スタイロフォーム・エポキシ系・ウレタン系の接着剤は入荷が制限されており、溶剤（錆止め・SOP）は受注停止となっている。

・シーリング材はメーカーの前年度月次納入実績に基づき納入数が決められており、必要数量の確保が困難。弾性接着剤・防水材・内装用接着剤・コーキング剤にも出荷制限がかかっている。

■ 塩ビ管・配管系の供給制限

・塩ビ管は1回の入荷で20本の制限がかかっている事例もあり、入手時期についてメーカーから回答が得られない状況が継続。たて樋塩ビ管についても必要数量の確保が困難との報告がある。

・塩ビ管の必要数量の約4割程度しか入荷できないとの報告もある。

■ 断熱材の供給制限

・ウレタン断熱材は工場の出荷停止で必要数量の確保が困難。断熱材は必要数量の契約が不可で、直近の必要量のみ入荷できる状態が続いている。

・変性シリコン・エポキシ樹脂系接着剤の入手が困難で、外壁透湿防水シートの供給不足も報告されている。

■ その他

・アスファルト防水材・乳材は数量制限があり必要量の確保が困難。シーリング材・塗装材も供給不安が継続している。

会員による今後の見通し

■今後の価格高騰が懸念される建設資材

- ・資材について、価格が下がる事は、ありえない。基本的には、サブコンやメーカーの提示するがまま。
- ・中東情勢の影響もあるが、各メーカーが一斉に4月からの値上げ、また9月から空調機器の値上げを発表している。具体的には、内外装工事において1年前と比べて40～50%の値上がりとなっている。2月と比較しても全体で15%程度値上がり。秋（9月）以降は、工事コストの見通しが立たない。来年、セメント価格が再度上がるとの情報あり。それに伴い生コン価格が上昇する心配がある。
- ・鋼管類今年初めに価格改定したが秋頃にも価格改定の案内が出ているので、今後も色々なメーカーで2度・3度の値上げが予想される。
- ・来年4月よりセメント価格の改定及び減水剤の価格上昇。
- ・鋼材価格 夏場以降値上予想あり(足元より30%の価格高騰見込み)

■今後の入荷遅延が懸念される建設資材

- ・塩ビシート、AS合材に関わる資材が目処がついていない模様。
- ・土木・污水管渠用の塩ビ製品、建築・断熱材など納期が未確定で予測不能。
- ・屋根断熱材t=50、スラブ下断熱材、電気盤、航空障害灯、塗装材は今後も納期遅延が見込まれる。
- ・錆止塗料に関して経産省の調整や代替調達により極端な遅延は改善していくと思うがメーカー間や地域間での供給格差が残る可能性がある。
- ・衛生器具は毎月の工場からの出荷制限のなかで、どの月に割り当てられるか不明。

■今後の供給不足・制限が懸念される建設資材

- ・断熱材類・防水材類・接着剤類は受注はするけど納期回答未定及び順番待ち。
- ・特に各種塗料（シンナー系）・断熱材・各種塩ビ製品・住設機器（ユニットバス他）についてはメーカーが生産と供給体制を中東情勢発生以前へ戻さなければ、今後の納期への制限は継続されと考えている。
- ・アスファルト防水材・乳剤の数量制限、シーリング材の供給不安、塗装材の供給遅延は継続する可能性が高い。
- ・内装材関係で大量の注文は受注さえできないことが多いです。

会員からの意見・要望等

(会員から寄せられた主な要望等)

■ 単品スライド

- ・ 公共工事における単品スライド、インフレスライドにおける請負者負担 対象工事費(残工事量)の1%の廃止をお願いしたい。

- ・ 単品スライド条項の柔軟な適用、代替資材使用時の設計変更手続の簡素化、電気設備機器の納期情報の早期提供、数量制限資材の優先供給体制の構築を要望する。

- ・ 公共工事にかかわらず、民間工事については特にスライド条項の適用は承諾の不確実性が高い為、民間工事についてもその適用の必要性を国が指導すべき。

- ・ スライド対応は各現場によって様々なので画一的な単品スライドでは対応できない。柔軟かつ迅速に対応いただきたい。過去の事例にとらわれずをお願いしたい。

■ 設計変更・代替資材対応

- ・ 公共工事において、単品スライドのハードルが高く実現しない。スライドではなく、設計変更で全額対応頂きたい。

- ・ 設計変更手続きなど簡素化してほしい また、見積もり対応としてほしい。

■ 工期延長・工程対応

- ・ 資材、機材の納期を考慮した発注時期と工期設定の対応及び、急な納期遅延、価格高騰に対する変更対応の簡素化をお願いしたい。

- ・ 工期内での早めの使用材料の確定、発注後の納期の余裕が必要

■ 市況・調達環境

- ・ 供給と価格の安定を期待し、便乗値上げのようなものを監視してほしい。

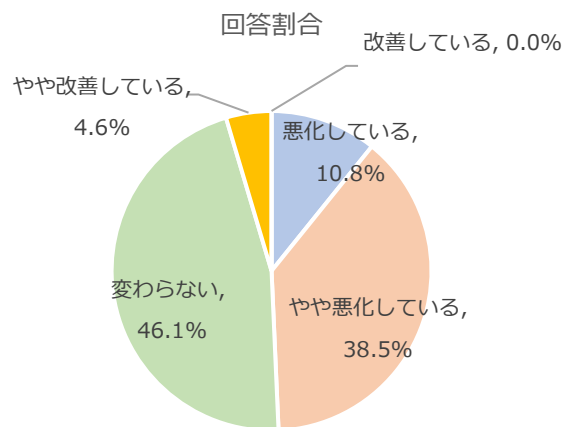
■ 見積・契約条件

- ・ 物価資料の価格と実際の取引価格の乖離が大きい。

6月から7月の状況変化

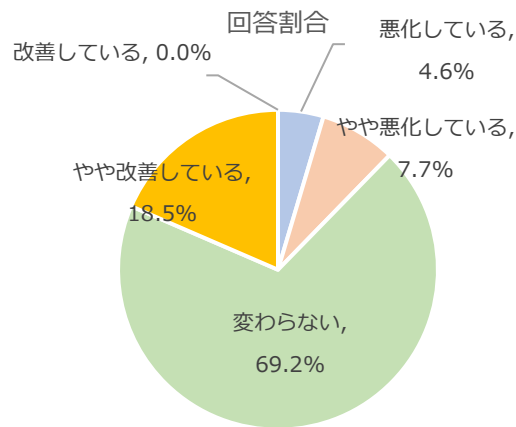
- 価格の高騰は、「変わらない」が最多46.1%(前回：31.2%)であるものの、悪化の回答も合計で49.3%（前回：68.8%）と引き続き高水準にある。一方で、前回まで0.0%であった改善の回答が4.6%となり、わずかながら初めて改善の回答が見られた。
- 入荷の遅延は、「変わらない」が最多69.2%（前回：53.8%）であった。また、悪化の回答が12.3%（前回：37.6%）であった一方、改善の合計が18.5%（前回：8.6%）となり、初めて改善の割合が悪化の割合を上回る結果となった。
- 供給不足・制限は、「変わらない」が最多69.2%（前回：54.9%）であった。また、悪化の回答が10.8%（前回：32.2%）であった一方、改善の合計が20.0%（前回：12.9%）となり、初めて改善の割合が悪化の割合を上回る結果となった。

価格高騰の状況変化



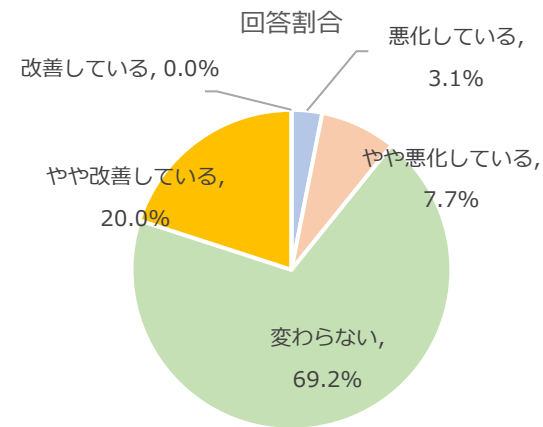
■ 悪化している
■ やや悪化している
■ 変わらない
■ やや改善している
■ 改善している

入荷遅延の状況変化



■ 悪化している
■ やや悪化している
■ 変わらない
■ やや改善している
■ 改善している

供給不足・制限の状況変化

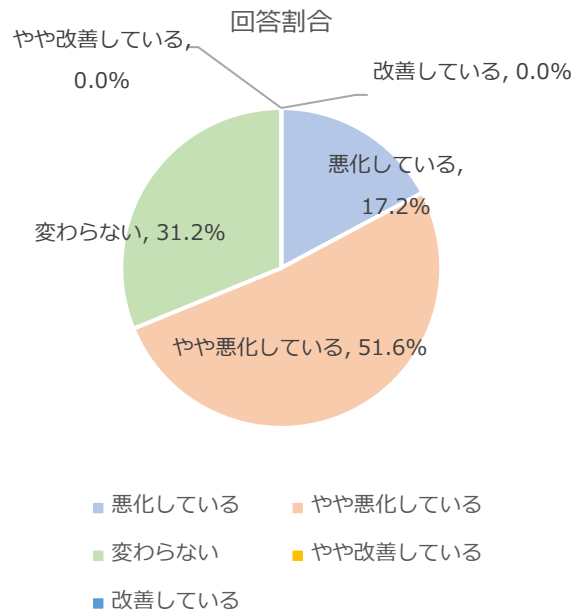


■ 悪化している
■ やや悪化している
■ 変わらない
■ やや改善している
■ 改善している

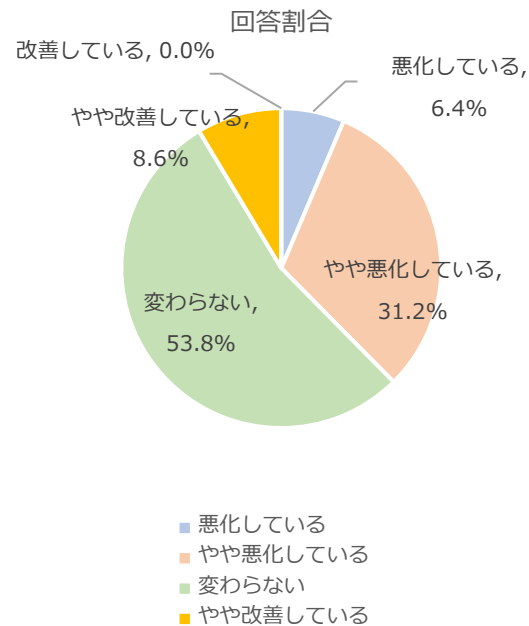
(参考) 5月から6月の状況変化

- 価格の高騰は、「悪化している」及び「やや悪化している」の合計が68.8%と、悪化の回答が多い。一方で、改善の回答は0.0%となっている。
- 入荷の遅延は、「変わらない」が最多（53.8%）であるものの、悪化の回答も合計37.6%存在する。一方で「やや改善している」が8.6%となり、改善の兆しがみられる。
- 供給不足・制限は、「変わらない」が最多（54.9%）であるものの、悪化の回答も合計32.2%存在する。一方で「やや改善している」が12.9%となり、改善の兆しがみられる。

価格高騰の状況変化



入荷遅延の状況変化



供給不足・制限の状況変化

